

連続コラム

うちんたあのお宝、なんやね？  
第5回 妻木窯下古窯跡群

土岐市南部の妻木町に所在する妻木窯下古窯跡群は、美濃窯の中では唯一、室町時代から江戸時代の長期間にわたって、同一丘陵内で窯業生産を行っていた古窯跡群です。発掘調査が行われていないため詳細は不明ですが、東西約250m、南北約75mの範囲に室町時代の窖窯2基（5・6号窯）と室町時代末から安土桃山時代の大窯4基（1・3・7号窯）、江戸時代の登窯1基（4号窯）の計7基が近接して分布しています。

これらの窯では時代によって異なる製品を生産しており、5・6号窯では、調理具・食膳具を中心に茶道具や仏具、1・3・7号窯では、調理具・食膳具を中心に茶道具である桃山茶陶を、4号窯では茶道具はほとんど無く、食膳具と共に美濃窯では数少ない施釉瓦を焼成しています。では、なぜ妻木窯下窯だけが、このような長期間にわたって窯業生産を行えたので

しょうか。

一番の理由は、周辺で製品等の原料となる粘土が豊富に採取できたことが挙げられます。原料が枯渇すると、それを求めて移動しなければなりませんでしたが、本古窯跡群の北側の妻木町山本周辺には西山鉱山跡をはじめとする採掘場が複数あるため、原料供給先の一つとして機能していた可能性があります。もう一つの理由は、領主（土岐明智氏・妻木氏）が窯業政策の一環として領内に陶工を誘致したため、安定した窯業生産が行われたのではないかと考えられます。

本古窯跡群周辺には、城館跡である妻木城や妻木城土屋敷跡、集落跡及び城館跡である妻木平遺跡などのさまざまな種類の遺跡が点在しており、妻木地区の歴史の変遷を知ることができる重要な場所です。今後これらの遺跡の大切さを後世に伝え残していく必要があります。



天目茶碗  
(6号窯出土：室町時代)  
土岐市美濃陶磁歴史館蔵



灰釉緑釉流し大鉢  
(4号窯出土：江戸時代)  
土岐市美濃陶磁歴史館蔵



志野鉢  
(1～3号窯出土：安土桃山時代)  
土岐市美濃陶磁歴史館蔵

第1展示室『現代茶陶展のあゆみ』・第2展示室『元屋敷陶器窯跡出土品展』

6月20日まで開催中。

6月25日からは『土岐市の古窯—妻木窯下古窯跡群—』を開催します。